

「北朝鮮国内の韓国」 - 開城工業団地訪問記 -

京都大学大学院経済学研究科教授 大西広

国立大学教員は法人化で非公務員になったはずなのに、まだまだ公務員時代の多くの制約を受けていて、出張の形で北朝鮮を訪問することができない。外務省から事務室を通じて正式に聞かされた理由は、「国交のない国は研究する必要がない」とのことである。戦時中、アメリカは日本のことを一生懸命に研究していたが、残念ながら日本国外務省にはそのような資質がない。仕方ないので、有給休暇をとって、私費でこの興味ある工業団地を訪問した。2006年8月下旬のことである。

実際、行ってみて「百聞は一見にしかず」とはこのことと感じた。開城の旧市外から少し軍事境界線よりに離れた広大な丘陵地を大規模に平地化し、続々と工場が建てられつつある。実はこの一年半前に軍事境界線の韓国側にある都羅山展望台から建設中のこの地を望遠鏡で観察したことがあるが、当時は望遠鏡の角度の問題でまだ工場を目視することができなかった。しかし、来て見るとその実態が手に取るようにわかる。現在見られるのは、最終的には100万人が住む大都市にするという4期から構成される全体計画の第一期のそのまた初期段階にすぎない。訪問した開城工業地区管理委員会は韓国側と北朝鮮側が階を違えて共存する建物で、その中にある視聴覚ルームで、ここが北朝鮮かと思議に思うほどの最新鋭の設備を使って、全容を紹介した派手なプロモーションビデオを英語で聞いたのち、いくつかの説明を受けた。この説明員も北朝鮮の人間と聞いたが、驚くほど英語が上手で、また身なりもソフィステイケートされている。いいかえると、ここはもう韓国なのだと言うべきだろうか。ちなみに、この開城工業団地の電力は南から供給されており、電話も韓国のKTが引いている。さらに、現地北朝鮮の労働者は利用できないとの情報があるが、ファミリーマートも進出していて必要なものはすべて買えるようになっている。この工業団地には軍事境界線を越えて韓国側から200-300人の技術者、経営陣が毎日バスで通っているとのことである。

そこで、訪問した二つの企業を紹介する。

まず一社目は「大成ハタ」と名のつく何と日韓合弁の企業であった。開城は韓国企業専用となっているが、韓国に本社があり、韓国側出資比率が90%のこの企業は「韓国企業」と認定されてここへの進出が許可されている。日本側の出資者は「ハタ」という名の大阪にある企業のように生産工程の水とシステムの管理で二名が常駐で技術指導をし



「テソンハタ」という工場の風景

ている。製造しているのは化粧品の容器でその性質からして高級感の漂う容器としっかりなっている。そして、驚いたのは、製品を梱包する箱に「made in Korea」とはっきり書かれていたことである。この訪問から帰国した直後、2006年8月24日の『日本経済新聞』夕刊によれば、ASEANがこの工業団地の製品のうち100品目をそのまま韓国製と認める決定を行ったとのことであるが、この「大成ハタ」は韓国国内でラベルを貼るという程度の「加工」をして日本などに供給しているという。ただし、この商品についてのことではないが、アメリカは韓国国内での加工の比率を問題にしているという。



「Made in Korea」で搬出されている

2005年9月に進出し、この時点でほぼ丸一年が経過しているということであるが、ひとつの容器の生産でも多くの加工工程があり、さらに製造している容器の種類も多いこの作業はかなり流れ作業として確立しているように思われた。韓国側からは28人、現地従業員は562人（3ヶ月前の

資料では400人)となっているが、個々の工程は一人から数人の規模に分割される。手が器用でまじめに働く労働者をもっとも必要とするタイプの労働集約型企業と理解される。ただし、成型機の性能も重要で、「AOKI」とのプレートのついた日本製のものを使っていた。

なお、労働者の賃金は月70ドルというから8500円程度で中国元にすると650元程度となる。これは大きく言って中国延辺自治州あたりの賃金と同程度と言えようか。もちろん、これは約60-70km南の韓国の賃金水準の半分以下の水準と見られるが、それでも公務員賃金が3000ウォン=150円程度とされる北朝鮮の平均賃金とは比べ物にならない。よって開城の人々はここで働きたいと強く思っているが、その決定は北側の労働管理局、具体的にいえばこの場合特区開発総局の職業斡旋部門が握っているという。どの工場にも労働者専用の自転車置き場があってピカピカの自転車が並んでいた。その程度は楽に買える生活水準を労働者は得ることができるようになっている。



ずらりと並ぶ従業員の新品の自転車

訪問したもうひとつの企業は「シンウォンShinwon」という韓国のアパレル・ブランドの工場であった。この企業は自社として5つのブランドを持っていて、ここで作った製品は全量韓国国内向けに供給するという。確かにこれだ



Shinwonという工場の風景

と上述のような製造地の問題が発生しない。この会社は現在の全製品の3-5%程度をここで作っているが、今後17%程度に拡張するという。それでも、ここでの製品は全量韓国国内に供給し、輸出品は韓国国内で作ったものにするができる。うまいやり方であると感心した。

なお、雇っている労働者は韓国側から8人、北側からは556人となっているが、翌月にはそれぞれ9人、840人に増やすという。こうした急拡大のために従業員の訓練も重要で、現在250人が実習中であるという。これによって現在10のラインが動いているのが、新たに5つのラインが動くようになる。また、賃金水準は67-70ドル/月であるといわれたので、先の「大成ハタ」と同程度である。が、これ以外に食費やシャワー代などいろんな支出があって実際は金額換算で120ドル/月程度かかっているといわれた。実際、食堂も見せてもらったが、大変綺麗で韓国製のお菓子の箱が並んでいたから、こうしたものが毎日提供されているのであろう。ただし、「大成ハタ」ではこの点は聞きそびれたので、比較できない。



進出している他の企業の工場

いずれにせよ、日本にも時に新聞などでこの工業団地の状況が報道されるが、実際に見るとその物凄さがよく分かる。もっと北朝鮮の実情を知らねばならないと強く感じた訪問であった。